

平成29年度教育事業 「イングリッシュキャンプ」  
 (話せる聞ける体験できる！2日間英語でチャレンジ )  
 平成30年1月13日(土)～14日(日)

◆目的

新学習指導要領の本格実施に向け、国立の教育機関として、教育内容の改善と充実を目指し、イングリッシュキャンプを来年度より実施する。本格実施にあたってのモデルキャンプを行い、今後のプログラム改善等に活かす。プログラムの目的は、2日間で人間関係づくりのスキルの向上や積極的に仲間とコミュニケーションを図り、課題を解決する力を養うことである。特色としては、赤城アドベンチャープログラムを英語で行うことにより、仲間作りを大切にしながらも、英語も学べるようにしたことである。

◆参加実績

群馬県立中央中等教育学校 5名 伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校 6名  
 群馬県立前橋高等学校 2名 合計13名

◆講師

国際基督教大学非常勤講師 藤樫亮二  
 イングリッシュプレイタイム講師 アレン・スミシー

◆ボランティア

国際基督教大学2名 群馬大学1名 法人ボラ1名

◆プログラム

① アイスブレイク 10:00-12:00

お互いに名前を覚えたり、助け合ったりすることで、参加者同士の信頼関係作り目的に活動を行った。  
 引用 藤樫亮二氏 指導メモ



内容	目的
Categories (血液型、誕生日など)	緊張がほぐれて、この集団や場で、英語を話したり、一步踏み出したりするチャレンジをしてもよいという気持ちになる。
Line Up (名前、呼ばれたい名前など) ノンバーバルも	他者理解、自己開示、名前と呼ばれる、名前を呼ぶ コミュニケーションの瞬発力 (声を出す、瞬時に発声してしまう) error is ok、error is fun! Trial & Error
Elbow tag Help Me tag	安心を感じる関係性 お互いに助けを求める、助ける
C-zone Questionnaire	安心ゾーンを作ることと、そこから一步踏み出すこと=成長



②赤城アドベンチャープログラム 13:00-17:00

オールイングリッシュで赤城アドベンチャープログラムを行った。このプログラムは、仲間とともに英語で考えたり、コミュニケーションを行うことで、英語のアウトプットのみならず、人間関係づくりも行うことができる点が特徴である。



③レクリエーション 19:00-21:00

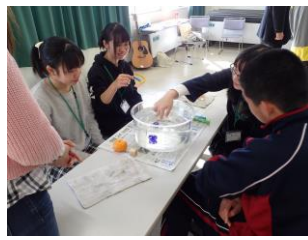
英語を聞いて、英語で動き、英語で発信する。



#### ④不思議な科学 9:00-11:00

物体が浮くときの定義を確認してから、野菜を使って予測、実験、考察を行った。

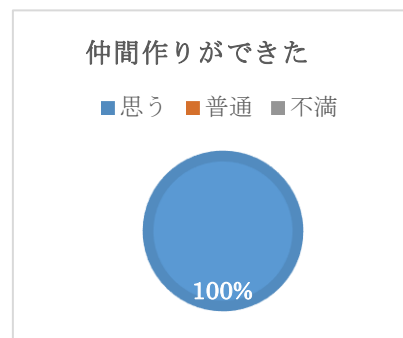
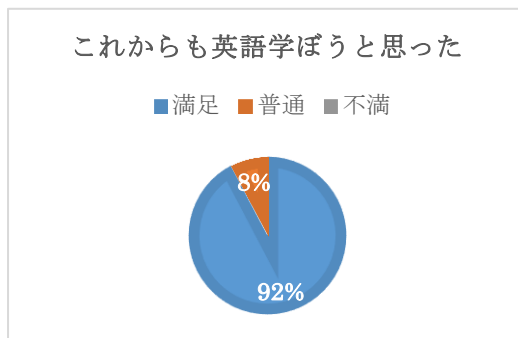
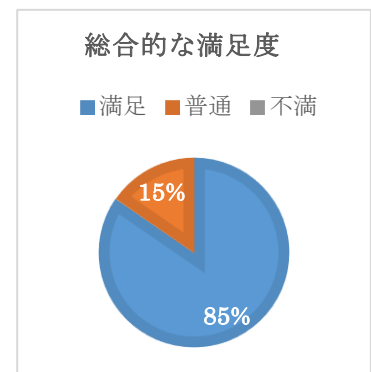
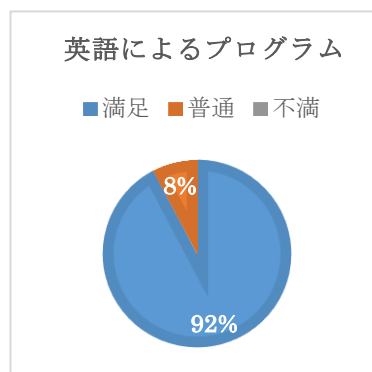
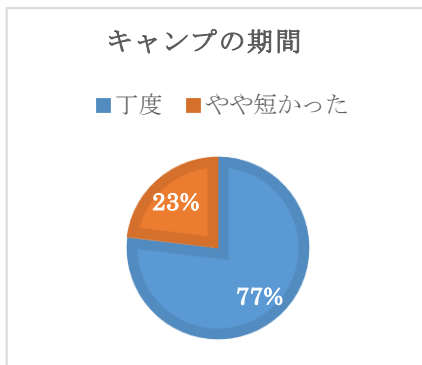
浮く物体の共通点や浮かない物体についてわかることなどを英語では話し合った。科学的な思考と英語を合わせた課題解決的なプログラムを目的とした。



#### ◆成果

アンケートより

- ・違う学校の仲間とコミュニケーションがとれて良かった。
  - ・体験活動を英語で行ったので、普段学ぶことができない表現を知ることができた。
- 主なアンケート結果



満足：大変満足&満足 不満：不満&大変不満

#### ◆考察

- ① 英語を使うだけでなく、仲間作りも同時行うことができた。
- ② 課題を解決することを通して、コミュニケーション能力の育成につながった。  
最後にイングリッシュキャンプを国立の施設が行うことは、下記のような利点がある。
- ① 学校団体が教育課程の一環として、イングリッシュキャンプを行う際のモデル（プログラム開発）となる。
- ② 民間のイングリッシュキャンプに参加できない児童生徒も平等に機会を得ることができる。
- ③ 新学習指導要領の英語を学ぶ機会及び手段を学校にパッケージとして提供することができる。